

# ハラスメントのない教会共同体をめざして

## ～教会におけるハラスメント意識調査～

### まとめ【後編】

【後編】は被害者の声を中心に紹介する。次号【総括編】は調査結果から見えてきた「課題」と「改善の道筋」を探る。

ハラスメントの具体的な内容については前編で掲載したが、後編では、それらのハラスメント被害者達の声を掲載する。紙面の都合上全員の記述を掲載することはできず、また、加害者や被害者、人や場所等が特定されないよう、一部文章を変更し抜粋掲載している。

#### (1) ハラスメントを受けた後 どう行動したか

全回答者584人のうち237人41%が「教会内で、いじめ、いやがらせ、ハラスメントがあ

ると思う」と回答しており、そのうち158人が「自分がされた」という被害者である。これらの人に「ハラスメントを受けた後どう行動したか(問11イ)」尋ねたところ、「信徒に相談した」「どこにも相談できなかった」と回答した人が回数39%で最も多く二極化している。被害者の具体的な行動は次の通り。

##### ▼加害行為者へのアクション

「本人にも伝えた」「無視した」「言い返した」「その場をはずした」「それはおかしいと反論して奉仕を辞めた」「その場で人権侵害に当たると伝えたが取り合ってもらえなかった」「対立し和解した」

##### ▼第三者へのアクション

「警察に届け出た」「当初は誰にも巧く話せなかったが友人に話せた。30年経ってようやく教区事務局へ手紙を出した」「役員会で話した」「そのことに関わる部の部長に事実を話した。相談ではない」「当時の司祭が私を怒鳴った信徒と話し合いをした。その後司祭への風当たりが強くなった」

▼教会から距離を置く  
「教会ではミサが終わったらすぐ帰宅するようになった。教会(ミサ)に行くのが苦痛になった」

「自分は間違っていたことをしていないと思いい教会から離れなかったが、もう一人の人は教会に来なくなった」「教会から離れた」

##### ▼何もせず我慢した

「そのうち本人が気づくこともあるかと思いついて我慢した」「その時はただびっくりして何も言えなかった」「あえて人には相談しなかった」「どこにも相談する気はなかった」

#### (2) 相談して良かったか どうか分らない

ハラスメントを受け誰かに相談したという回答者106人への「相談して良かったか(問11ロ)」の設問の自由記述は次の通り。

【相談して良かったかどうかから47%】▼「悩みを共有してくれたが解決には至らなかった」「話すことで自分の心は少しは軽くなるが解決にはならない」「もしかしたら解決するかもしれないと思ったが、やはり解決することはない」「相談相手は介入できない立場なので何の解決にもならなかった」

「どうにもできなかった」「信者同士で愚痴に終わってしまう」「以前相談した時に『よくあること』とスルーされた」「何も

変わらなかったため教会から離れた」など、問題解決に至らなかったという記述が多い。その理由として「加害者達の自覚の問題。多分全くない」など、加害者のハラスメント意識の低さを指摘する声にも多く寄せられている。また、「当時は加害者への周囲の評判がよく、恐ろしくてどうしたら良いかわからなかった」など、加害者を良く思う周囲の圧に怯える声や、「すでに深く傷つき教会に行けなくなった(半年間)。とても辛くて何の慰めも受けなくなりました」「信徒でない友人や家族に話したことは教会の恥をさらすことでもあり、宣教の逆のことをしてしまったと思う。けれどもそうせざるを得ないほど悲しく辛いことだった」という苦しい思いも綴られていた。

【相談して良かった43%】▼「同じ行為を受けた人は他にも複数いたので気にしなくなった」「こちらに問題がないと改めて確認できてすっきりした」「解決はしないが理解者を得た」など、状況整理ができたことや、

「いつまでも嫌な気持ちを引きずりたくなかった」「自分ひとりで抱えると辛いので話すだけでも良かった」「相談すること

で気持ちが楽になった」「まず自分の気持ちを楽にすることができ、そのあと冷静になることができた」「心が穏やかになった」「その人がいるのでミサに行きたくないという私に、『信仰とは神様に対してのこと』という助言で、加害者には挨拶だけに」「道内司祭は聞きたくないと否定されたので道外司祭に聞いてもらい心落ち着いた。皆本当のことを相談できない方々ばかり」など、心情整理ができ

たことが挙げられており、相談者の対応が被害者の立場に沿った対応であったことが窺える。

##### 【相談すべきではなかった7%】

▼「神父が言うには『仕掛けた人は友人もいるし、そんなことする人でない。他人に言うこと事になる』と止められた」「修道者へは相談するべきではなかった」「何も前に進んでいない」などで、二次被害を受けている状況も記載されていた。

#### (3) 自分が我慢すれば良い 何をしても解決しない

ハラスメント被害を誰にも相談できなかった回答者62人へ「相談できなかった理由(問11ハ)」を尋ねたところ、「自分

が我慢すれば良いと思った52%」「何をしても解決しないと思っただけ」と、相談以前に解決をあげられている回答が上位を占め、「行為者が更にエスカレートすると思う29%」「自分が不利益を被ると思った18%」など、自身の立場が追い込まれる心配を挙げる人も多い。また、相談したくても「どこへ相談すれば良いか分からなかった19%」や、相談しようと思っても「ハラスメントデスク相談窓口が教会職員であり信用できない」「ハラスメントデスクへ相談することで自分が何か不利益を被るのではないかと思った」など、デスクの認知度の低さや信憑性を問う声も寄せられた。

#### (4) ハラスメント行為を

##### どう思うか

ハラスメント行為についてどう思うか、ハラスメントを「した・受けた・見聞きした」回答者221人への設問(問12)で「その他」44%を選択した回答者の具体的記述は次のとおり。

##### ▼【自分で対処するしかない】

「神父に相談して取り合ってもらえなかったので耐えること

にした」「あげらるるしかない」「教会を異動することが決まっていたので、この人達と同じ土俵にはのらないと思いい無視した」「毅然とした態度で対応できなかった自分も悪かった」「宗教は力があれば何をやってもいいので嫌なら辛抱するしかない」「いじめやハラスメントであっても神様に捧げて祈れば忍耐するうちに解決できると思った」

##### ▼【相手に問題がある】

「相手は問題があることに気づいていないと思う」「している本人は当然とっておろ注意しても聞き入れない」「はっきりいじめと認識できた。小1の子どもへのそれは何の解決も得られなかった」「相手が一人で何でもするので受け入れられなかった」「承諾していないのに承諾したかのように受け取られる」「自分が正しいと信念を持っているので手に負えない」「男性・役員で力弱い人を封じようとするタイプの人がそのような行為に及ぶのかと思う」「キリスト者としての自覚がない」「信徒歴が長いことで優位な発言や行動をしている」「相手の根性が悪いだけのこと」「個人の人間性の問題」「信仰が薄い」「信

徒として長く教会にいる割に自分の感情を止められない人が思ったより多い」「想像力不足と無知」「相手の性格は変えられない」「そのような行為は行うべきではない、特にグループを作って一人に攻め立てるのは卑怯である」「信徒(キリスト者)としてありえない行為、神の教えをどう受け止め何のために教会に通っているのか疑問を感じる」「教会にいけなくなるほどの苦痛を受けることは紛れもなくハラスメント、相手が気づいていないことが恐ろしい」「私が主任司祭や役員に意見したことは恥をかかせたことだったかもしれない。でも教会運営上必要だったとも言えます。私が見聞き、受けた言葉や行為はセクシュアルハラスメント・パワーハラスメントだと思います」

##### ▼【あつてはならないこと】

「教会神の家であることを考えると絶対にあつてはならないことと考えます」「不愉快だ」「絶対あつてはならない。自分たちが気に入らない司祭に対して陰で呼び捨て悪口を言ったり目に余る。同じカトリック信者として恥ずかしい」「改善するべきことと思います」「教会で

もいかなる組織でもいじめはあつてはならないこと」「よくあつてはならない、教会運営上必要ならわけない」「個人の思想や人格を否定するような大変失礼な扱いに感じられる」「ハラスメントである」「される側にも問題があるから…という人がいるが、どんな事があつても認められない」

##### ▼【教会から人が離れる】

「ハラスメントには当たらないが、それらを受けたことによりいじめられ感を感じ、教会から離れるきっかけになってしまふと思う」「そのことが原因で教会を離れる人が多くなつてはいけな」と思う」「私は我慢して通いつつ洗礼を受けたが、他の人は来なくなつてしまつた、洗礼志願者が少ないのはこうした理由だと感じる」「教会へ行くことが嫌になり離れるきっかけとなつてしまふと思う」

##### ▼【相互理解の努力必要】

「様々な考え方の人の集まりなので、お互いを理解しようとするのが大事」「相手への思いやり、尊敬の念、尊重する姿勢が大切だと思う」「シノドスの意識を持って良い方向に歩み始めることを期待します」「見ただけで

暗い気持ちになる、互いに大切にすることが出来ないのは教会ではないと感じて行く気持ちが消えそつになる」

##### ▼【犯罪である】

「怪文書による脅迫は犯罪だと考えます」

##### ▼【苦痛だ】

「口論が続きましたが、びつくりして何も言えませんでした」「圧迫を感じた」「なぜ信者が？みんなの前で素晴らしい話をするのに：長い間苦しみました。今は高齢で教会はそういう人の集まりだと感じています」

##### ▼【教会に愛がない】

「典礼の学びに熱心なあまり、中央協議会の講習や本州の大きな教会で行っていることを所属教会で押し通すやり方は分裂と混乱を招く。カトリック教会にとって典礼は大切であるが、アガペーを失つては典礼の意義を失う」「教会に愛がない、愛が冷え切っている」「教会の活動の意味を見失いがちに思えます」「愛を掲げる教会に愛に飢えた人が集まり、そこに悪魔が活動するの…：祈るのみです」「神の家である教会で、このようなことが起こることは普通ではない」

##### ▼【その他】

「司祭が信徒を子ども扱いしているように感じる」

「年代的に『よくあること』と耐えてきたが、今では立派なハラスメントだと気づいた」「聖職者のイニシアティブが弱い行

為と思う。いじめやハラスメントが多発していた時期、当教会は司祭に相談できる状況にはなかった」「教会共同体の中で蔓延しているように感じるのはいただけかもしれない、小教区にはありがちなことと理解している」「見苦しいと思う。周りにいた他の信者の方々の対応がそれぞれすばらしく、教会ではハラスメント行為をする人を排除してはいけないんだと考えさせられました」「たとえ相手が悪い行為をしたとしても感情的な行動は慎むべき、気づいたら謝罪すべき」「パワハラ等は連鎖、蔓延するのでよくあることだからこそ誰かが異を唱えないとならない」「相手が病気だったり弱い立場だと言われやすいのでハラスメントに該当するものもあると思います」「個人の問題だと思うが…」「社会よりも強弱が大きく育ちの問題も見逃ごせない」「人権が尊重されるための学習が必要」「あつてはならないことだと思つと同時に

『人間の集まりだからなあ…』とも思います」

### (5) ハラスメント被害者の苦しみと叫び



①【児童虐待】▼今まで言う機会がなく、信仰の下に耐えてきましたが、本心は児童虐待で訴えたい。加害者を処分してほしい。いまだに加害者がいるので、トラウマを受けた子供たちはミサには行けません。それが一人ではなく何人もいます。司祭は次々異動で変わり、問題は薄れるばかりです。子供たちの心は誰が救うのでしょうか。



②【児童虐待】▼10年以上前の教会学校・侍者のための会でのことです。ミサが終わり香部屋に戻ると、子どもたちは顔や体を指導者に殴られていました。当時の役員は見て見ぬふり。その子供たちは今は教会に来ていません。児童虐待していた人間が聖体奉仕をする、ミサを進行させる、そんな教会は誰も行きたくありません。



### ③【児童性虐待】▼私(男性)

は少年期から青年初期の頃、ある司祭から性虐待を受けたサバイバーです。あまりに強烈な出来事だった故にそのことは自分の中に封印して生きてきました。近年思い出さざるを得ない状況にあり、どうしても辛く耐えられないことから、初めてその事実を限られた何人かに打ち明けましたが、やむを得ず打ち明けただけで、この先、誰かに話そうとは全く思っていません。性虐待という問題は加害者被害者だけの問題ではなく、両者を取り巻く多くの人への精神的影響があまりにも大きいと思われ、それを思うと口を開こうという気持ちにはなれないのです。それらの人との関係を平穏に保てるのであれば、私はこの先も封印しようと思つています。多くの被害者は教会から離れていると思われませんが、私のようなサバイバーも現に存在しているのですから、教会が本当に被害者に対して真摯に向き合おうとするならば、サバイバーの声を聴く努力をしてほしいと思います。『どうぞあなたの声を直接聞か

せてください』と言つてほしいのです。



### ④【セクシュアルハラスメント】

▼教会でのあるお手伝いの時、男性信者からいきなりお尻をつかまれた経験があります。その人は今は教会に来ていないので安心していますが、言わずにいる人は他にもたくさんいると思います。男性信者がいきなり女性信者に覆いかぶさるのを見たこともあります。ふざけている様子ではありませんが、女性信者は不快な様子だったようです。男性は信者(あるいは求道者、神父)として、教会というところはどこか、女性性に対してどういう態度をとるべきか、個々人の意識改革を切に願います。祈りの場であり神聖なところであるということをお忘れしないでほしいです。



### ⑤【パワーハラスメント】

▼ある司祭からパワハラを受けました。司祭といつてもいろいろな人がいると思つていましたし、「自分の方が良く知っている、あなたはわかっている、

い。」と言われると、信者歴の浅い私にはまだまだわかっていないことがあるのだと思うようにしていました。大概は二人でいる時でしたが、ある時から他の人もいる前で言われるようになりました。話を始めると止まりませんし、話の途中で口を出そうとすると「まだ話は終わっていない」と怒られました。

「司祭を嫌いだ」と思う自分も悲しく、なぜ怒られるのかわからず、家族が出かけた後に、一人膝を抱えて泣いたこともありましたが、司祭は、私にだけ怒りをぶつけていたのではありませんでした。自分を敬ってくれる人は大切に、そうではない人は排除していました。既に教会を離れた人もいましたし、「怒りの矛先が今日は私に来ませんように…」と怯えるような気持ちで主日のミサに与っている人もいたようです。



### ⑥【二次被害・宗教ハラスメント】

▼傷つく思いを相手に伝えると否定される。周りに相談しても否定される。あなたの思い過ごし、あなたの考えが間違っている、相手を非難している、

相手を悪くどつてい、捻じ曲げてどつていると言われる。奉仕を強要され断ると、奉仕する気持ちがないのか、決まったことに従わない、断ることは傲慢、自意識過剰と言われ、聞き入れられない。信徒として苦しみを受け入れなければならぬ。傷つけてくる相手であつても、受け入れなければならぬ。愛さなければならぬ。寛大でなければならぬ。辞めたいわけではないけれど信者を辞めることができないという思いに苦しめられる。



⑦【障がい者差別】▼知的障害や発達障害のある信徒に対して、他と違うことについて理解できず、辛くあつたり、能力以上のことを要求したりしている場面を見聞します。セクシヤリティなども含め、自分と違う存在を理解し受け入れ、皆でそれぞれの良さを見つけ伸ばしながら教会活動をしていけると良いと思います。自分イコール他人ではなく、それぞれに背景、事情、性格や生活があり、どこまで踏み込んで良いかも違うと思います。私自身も周囲にあまり知られたくないことがあつたの

ですが、勝手に口外されました。その方は良かれと思つてのことだつたのでしようが、私は傷つきました。勝手に思い込まれると、周囲にあまり知られたくないという私の気持ちは理解してもらえません。人それぞれ色々な考え方、価値観があり、自分の考え以外のものをもつと知り、理解し配慮していく必要があると思います。



⑧【障がい者差別】▼信仰生活の長い方から「手話通訳を見ていると違和感がある。そう言っている人は何人もいる」と言われました。つまり、手話が邪魔、見えないところであつてほしいということとです。手話言語は聾者にとつて、命・人権を守る大切な言語です。手話通訳者及び聾者が前列に座る特性ですから、聾者は手話通訳を受けている間は目だけの情報で全てをキャッチします。つまり、手話通訳者を通して、ミサの全て（神父や侍者の動きなど）も視界に入るように見えているのです。その保障が奪われることは、人間の尊厳が奪われることです。多様性と言われますが、それぞれの特性を理解することが必要ではな

いでしょうか。



⑨【個人情報】▼個人情報の取り扱いや、ジェンダー問題への意識がアップデートされていません。年配の方々なので仕方ないと思う反面、性別や職業で決めつけた発言をされて傷ついたり、個人の電話番号などを不必要に役員間で共有されるなど、所属教会への不信感を感じることもあり、教会から足が遠のいています。教会にもよるのだと思いますが、若者の居場所ではないと感じます。



⑩【被害者の想い】▼教会は恐ろしいところだと考えてしまうようになりまし。一般社会の学校や会社などより教会の人の方がたちが悪いのかもしれない。教会に属している人はその教えの下にいますので、教会は善良な場と言う前提の下、無法地帯のような一面があります。何かあってルールを設定しなくても、誰もひどいことをするはずがないから大丈夫な場所だと誰もが思っているのではないでしょう。しかしそこでハラスメントや嫌がらせを受けると、まさ

にいつ何が起るか分からない、何が起きても不思議ではない恐ろしい場所が教会だとしか私には考えられません。神様と私の家族の関りにおいて恐ろしいことはなくても、そこにいる人々を見ると恐ろしいことがたくさんあると思えません。



⑪【被害者の想い】▼コロナが少し落ち着き教会では信徒同士の交流が大切だという動きがありますが、教会でのハラスメントを体験した身には別次元の話でそれどころではないです。ミサが終わったら、何か嫌な目に合せつつかくの日曜日を台無しにしなくて済むように、教会にこれ以上嫌なイメージを持たなくて済むように、長居は無用とばかりに帰ります。職場や学校は規則や校則があり、自分の待遇や成績に反映されることもあり、きちんとしたところではハラスメントやいじめに対して対策しやすいですが、教会には規則も勤務評価も成績もないのでハラスメントやいじめはたちが悪く陰湿だと思えます。だから改善は難しいと思えます。自分もハラスメントの餌食だし、餌食になつている人を知っている

ので、身に染みてそう思います。



⑫【被害者の想い】▼ハラスメントにあつた時は、心身共に痛み、教会に入ろうとすると足が震え呼吸も苦しく吐き気に襲われる苦しい日々でした。家族には話しましたが、ただひたすら神様の助けを願ひ、自分の役目を果たすのみの期間が5年以上も続きました。徐々に平安を取り戻しあれから何年もたちますが、今は笑顔でミサに与れて感謝の日々を過ごしております。司祭は何でもご注進、ご注進と報告する信徒や役員の告げ口を信じ、自分の目でしっかりと観ないで一方的に言葉を発し対応するのはすくく危険だと思えます。司祭や信徒の言葉で教会から離れてしまつた方がいるのは事実です。心に留めておいてほしい。

まとめ【後編】は教区ホームページからダウンロードできます。分ち合い等では非活用ください。次号は【総括編】を掲載予定。【前編】の集計結果からは見えてこない意識差（性別・年代別他）を軸に、「表面化しづらい実態」や「相談できない環境」などの課題について、改善に向けた道筋を探ります。